

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
34

2014 皐月・水無月



2014年度事業方針

道院という基盤の上で、
更なる布教活動を展開する

道院という基盤の上で、 更なる布教活動を展開する

金剛禅総本山少林寺

組織機構改革から3年目の2013年度は、改革施行後の点検によって今後クリアしなければならない課題に向き合い、現代社会に即した健全な組織運営を行えるよう、道院形態の移行に取り組んできた。これは現場を持つ道院長にとっては、とても大きな問題でもあった。しかし、開祖の志という原点と、現代社会における金剛禅の存在価値について改めて真剣に考え、議論しながら、本山・教区・道院が丸となって取り組んできたことで、ほぼ全ての道院が移行を完了することができた。改めて共に組織機構改革を進めてきた同志に感謝したい。

かくして、組織機構改革の本旨である「金剛禅の充実」に向けて、金剛禅運動を展開していくための基盤を整えることができた。2014年度は、この基盤の上で金剛禅の独自性を発揮し、地域社会に根ざした活動

を展開していけるよう、布教月間を設け、道院の価値を高めていきつつ、門信徒の増加、金剛禅布教者の充実を図る。左記、事業方針。

* * *

・布教と教化きょうげの実施機関である道院活動の充実を図る。

・都道府県教区および小教区活動の活性化を図る。

・道院長心得、次期指導者の育成強化を図る。

・東日本大震災の復興支援を、引き続き実施する。

・コンプライアンスに基づく運営の点検、充実を図る。

・本山組織機構の充実を図る。

重点実施項目および事業概要

(1) 道院活動の充実

・道院の特長を生かし、地域に根ざした道院活動ができる提案を行う。
・「布教月間」を設け、金剛禅の独自

性を発揮して布教の強化を図る。

・新規入門者の増加や休眠門信徒の復帰に向けて取り組む。

・組織機構改革の趣意に沿って、正常な道院活動が行えているか点検を行うとともに必要に応じたサポートを行う。

(2) 都道府県教区および小教区活動の活性化

・本山⇄総代⇄都道府県教区長⇄小教区長の連携を強化し、困難は援け合い、よいことは学び合い、喜びは分かち合える教区活動を目指す。

・道院活動の充実を目的に、道院長を対象とした教区活動を展開する。

・本山公認教区講習会や教区研修、小教区研修を通して、金剛禅布教師の資質向上を目指すとともに、教区活動の活性化を図る。

(3) 道院長心得、次期指導者の育成強化

・道院長研修会、道院長資格認定研

修会および認証式フォローアップ講習の内容充実を図る。

・講習会(次世代指導者育成、道院幹部など)金剛禅の独自性が生きる企画を立て、教えと技法と教育システムの融合を図り、指導者育成につなげる。

・金剛禅布教師の充実を図るため、僧階制度を促進し、僧籍編入者および僧階昇任者を増やす。

(4) 法令順守に基づく運営の点検、充実を図る。

・門信徒が安心して修行できるための環境整備に向け、現状の規則や運用、方法について点検、改善を図る。

・門信徒の安全管理と人権を含む精神的保護のために、体罰や各種ハラスメントの根絶に向けた指導および啓発活動を行う。

(5) 上記事業の実施に向け、本山組織機構の整備、充実を図る。

● 2013年度本山行事報告 ●

2013年度に本山で開催された
主な行事について報告する。

2014年					2013年				
3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月
3月 帰山	2月 認証式	1月 新春法会 道院長資格認定研修会	12月	11月 少年部指導講習会 僧階補任講習(大導師・中導師) 級拳士講習会 帰山	10月 道院長資格認定研修会 認証式 達磨祭 特別講習会	9月 講習会2次 僧階補任講習(少法師) 帰山	8月	7月 僧階補任講習(大導師・中導師) 道院長資格認定研修会 帰山	6月 講習会1次 認証式

■道院長資格認定研修会

7、10、1月の3回実施し40人が受講した。組織機構改革の主旨、道院長としての心構えや使命感に関する講義、布教師として基礎的な金剛禅教学講習のほか、経理事務や危機管理、道院の可能性に関する講義を行い、道院長として必要な知識と運営のノウハウを身につけさせた。

■認証式

6、10、2月に認証式を行い、新たに24人が道院長として認証された。所属門信徒、法縁関係者が参列する中、金剛禅の布教に努めていくことを誓約し、浦田代表から認証書および道院長の辞令を受けて、正式に道院長としてのスタートを切った。式典後は運営開始以降、認証に至るまでの間の総括を基にフォローアップ講習を行うことで、新任道院長を初心に立ち返らせるとともに、現状に流されることなく、教団として進むべき方向に意識を向けさせることができた。

■僧階補任講習(少法師)

9月、15人が受講し、少法師に補任された。「法師」という、僧階において位の高い資格の補任講習である。少法師は、各地域における布教者の指導者としての役割も担っており、今回の受講者を源に、各地域での金剛禅活動の更なる活性化が期待できる。講義だけではなく、受講者による日々の布教活動の報告や、講師を交えての討議などが展開された。

■少年部指導講習会

11月、「可能性を開く少年部指導」をテーマとして行い、81人が受講した。少年部指導が技術指導にとどまらないよう、子供たちの将来の可能性を引き出すことを主眼として講習を行った。講義およびグループ単位での実習を重ね、グループごとに子供たちに養ってもらいたい力を設定し、それをテーマとした指導法の研究・発表を行った。



■僧階補任講習(大導師・中導師)

7、11月に大導師と中導師への補任請願者を対象とした僧階補任講習を開催し、総勢25人が受講し、それぞれ大導師または中導師に補任された。大導師は道院長資格を満たし、中導師は副道院長資格を満たすことから、受講者が僧階補任を目指す目的には、しかるべき資格を満たし、道院活動をより充実させたいという思いが感じられる。講習は早朝の作務に始まり、法話演習・法座・儀式実習など幅広く展開され、金剛禅布教者としての能力を身につけるとともに、使命感を植え付けた。

■講習会(1次、2次、特別、級拳士)

7月 1次(次世代指導者育成講習会)
9月 2次(幹部講習会)
10月 特別講習会(行事参加型講習会)
11月 級拳士講習会(東京)

■新春法会

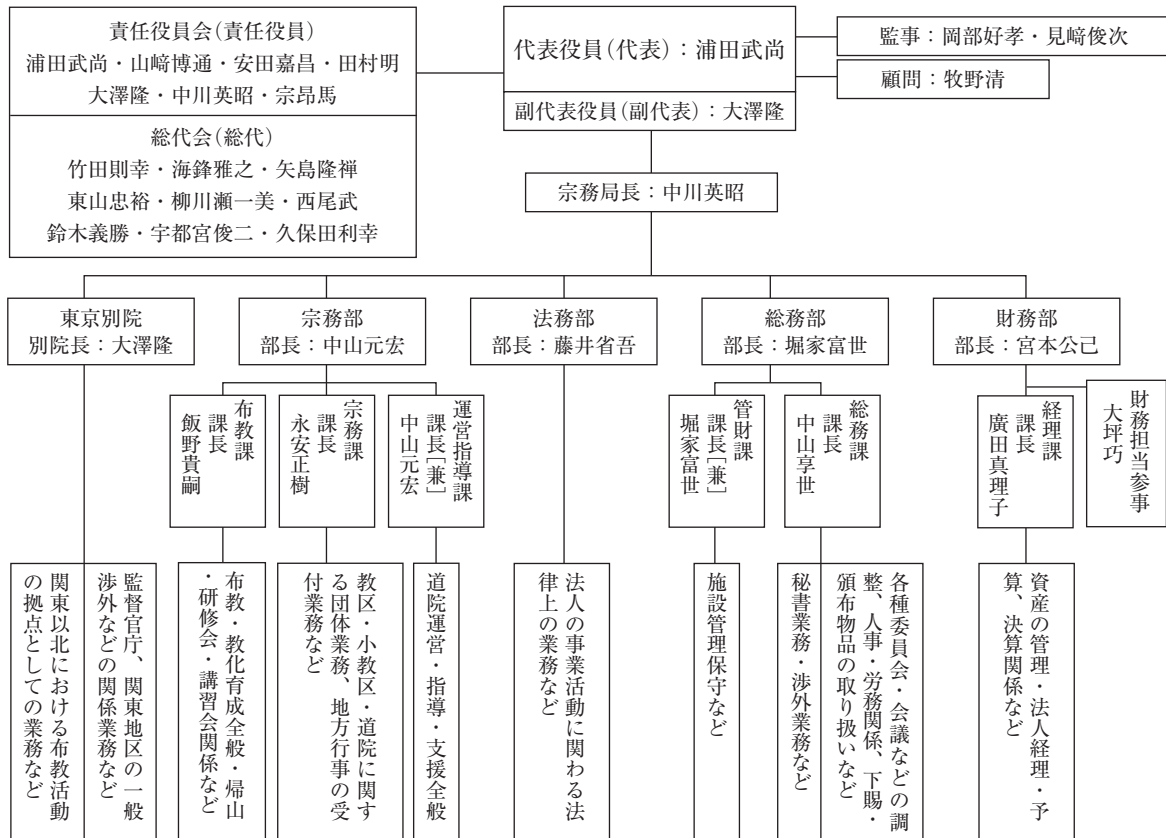
1月、新年の幕開けとなる行事で、道院長、門信徒約500人が参列する中、教典唱和、奉納演武、浦田武尚代表の年頭挨拶、門信徒代表年頭挨拶、道院長勤続表彰を行い、輝かしい新年の幕を開けた。また、演武会、稽古始め、新春懇親会などが催された他、境内では一般門信徒や法縁関係者へぜんざいが振る舞われ、終日にぎわった。

■帰山

4、7、9、11、3月の5回開催し、590人が帰山した。修練、法話、職員の演武発表を行い、日々の修練意欲向上と、全国の道院の仲間との同志的連帯意識の高揚を図った。本年度も家族や保護者を対象としたプログラムを実施し、門信徒のみならず保護者を含めた帰山者全員が満足できる行事を展開した。



● 2014年度組織図 ●



◆ 副代表就任挨拶 大澤隆



このたび2014年2月度責任役員会におきまして副代表役員として選任され、4月1日をもち

まして就任いたしました。この大役をお引き受けいたしましたうへは金剛禅教団の発展に全力を尽くして望む所存でございます。もちろん、初めての経験ですので不安な気持ちは正直ありますが、歴代副代表役員の先生方のご活躍を模範とし精いっぱい頑張ります。

組織機構改革が一つの区切りを終えたとはいえ、まだまだ道院長の先生方には多くのご苦労があると存じます。宗由貴第二世師家、浦田武尚代表役員へ仕えるとともにこの改革によって、全国の道院が生き生きと金剛禅運動を展開し、開祖・宗道臣先生の志たる「人づくりによる国づくり」平和で豊かな社会づくり(理想境)の実現を共に目指し働かせていただきます。

私は東京石神井道院(眞田玉雄道院長)に入門し、道院を設立後、道院長としては30余年、金剛禅の道を歩んでまいりました。まだまだ未熟な身、教団が進むべき人づくりの大道を須臾も離れずまっしぐらに進む決意でございますので、今後とも何とぞ倍旧のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

開祖生誕100年記念



記念館



旧道場

少林寺拳法旧道場・記念館

老朽化が進み、耐震関係の面でも使用できない状態となっている、「旧道場」および「記念館(五畳半道場)」を後世に残すため、2010年より開祖生誕100年記念事業の一環として、「旧道場・記念館整備事業」を行っております。

旧道場・記念館(五畳半道場)の修復整備に向け、ご賛同、ご協力をお願いいたします。

整備事業 ご寄付のお願い

【旧道場・記念館整備事業の内容】

内 容：記念館移設・旧道場、耐震工事、基礎補強・旧建物取り壊し(倉庫・住宅)など

目標額：2,000万円

【募金要領】

募金金額：一口 2,000円として何口でも結構です。

振込先：百十四銀行 多度津支店(店番275)

普通 0907870

金剛禅総本山少林寺開祖生誕100年記念事業

問合せ：金剛禅総本山少林寺 総務部

0877-33-1010(内線170)



開祖語録 ダイジェスト

1976年度高校少林
寺拳法部合宿にて

アジアの中で日本人は非常に特殊だということを、終戦直後に猛烈に感じた。ちょっとしたトラブルが起きたような場合、中国人は決してすぐ殴ったり、蹴ったりするような暴行はしない。ただ、取り囲んで非難をする。これが向こうの喧嘩（けんか）の方式で、殴るような格好をするが手が届かないぐらいの距離でやる。どなるのも相手に向けてより周囲の人に向

私と同じく満州（中国東北部）で敗戦を迎えた作家の安部公房氏が、アメリカ・コロンビア大学のドナルド・キーン教授との対話『反撃的人間』（中央公論社）の中で、敗戦直後の奉天での体験を次のように語っている。

かかって言う。すると周りが、「お前の方が悪い」という具合に騒ぐ。悪いと言われた方が負けだ。

あるときトラブルが起きて、日本人が取り囲まれた。その場合取り囲まれたのが朝鮮人だと、どこからともなく朝鮮人が集まってきて、一緒になってワアワアとやり合う。ところが日本人の場合、誰かが囲まれると、それまで周りにいっぱいたかっていた日本人が、いつの間にかスーッといなくなってしまう。

要するに日本人というのは、全然

新しい歴史を自分たちでつくろう

団結がない。個人としてはそういうふうには孤独だが、ある群衆になったときには異常に群衆心理が出る。酔ったようになる。日本人が集まると、とてもじゃないが文明人とは思えないようなことになる。本当にバラバラになる。日本人は弱いものに対して、それが自分たちの同士であつても、すぐく残虐になる。

少林寺拳法は、そういう日本人をなくしたい。本当の強さ、団結、日本人同士の助け合い。それをするためにはどうしたらいいか。

ふだん着の 金剛禅

総務部 部長 堀家 富世

自己を磨く

職場や家庭における日々の生活の中で何か問題が起きたとき、つい他人のせいにしてたり、愚痴や不満を言ってしまう。

以前、仕事のことで行き詰まり愚痴を言っていた私は、「愚痴や不平不満を何百回言っても何も解決しない。天に唾を吐いているだけ。自分に返しなさい」と先輩から諭されました。

何かあるとすぐに他人や周りのせ

いにするのではなく、自分自身はどうなのかを真摯（しんし）に受け止め、自分ならどうするかを相手の立場になり考えること、愚痴・不平不満は所詮自分の返ってくるものだと思われ、自分の弱さに気付かされました。

「己れこそ己れの寄るべ、己れを措（お）きて誰に寄るべぞ、良く整えし己れこそ、まこと得がたき寄るべなり」。金剛禅職員全員で行う朝の鎮魂行で、静かに自分と向き合い、昨

日を振り返り反省し、今日につなげていくことができます。

他人に依存するのではなく、正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると自分の意志で判断できる人間になるよう、感性を磨き続けていきたいと思っています。

そして、金剛禅が縁で出会えた方々に感謝し、これまで頂いた教えを、日々の生活に生かしていきたいと思っています。

釈尊の言葉「法句経」(上)

聖句「己れこそ己れの寄るべ(略)」と「自ら悪をなさば自ら汚れ(略)」の二句は、「法句経」に拠ったものである。

「法句経」は釈尊が自ら説かれた語句を集めたもので、パーリ原文ではDHAMMAPADA(ダンマパダ)という。「ダンマ」とは「法(真理)」、「パダ」は「言葉」で、「ダンマパダ」は「真理の言葉」、まさに釈尊の生の言葉を伝えたものである。

「法句経」は全部で423句ある。「聖句」の二句はそれぞれ160番、165番にあるが、423句のうち二つだけを唱えていることが少し気になる。

そこで聖句の後ろ盾となる、釈尊の言葉「法句経」を調べてみようと思う。テキストは友松圓諦著『法句経』(講談社学術文庫)の現代語訳を使う。

まず聖句であるが、160番、165番を改めて当たってみよう。

「まことに自己こそ自己の救護者である。一体誰がこの自己の外に救護者になりうるものがあるか。よく制せられた自己にこそ、吾らは他にえがたき救護者を見出すことが出

来る」(160)

とある。「救護者」という語によってこの句は、自己の他に救うものではなく、他に崇拜する何者もないという、極めて主体的で無神論的な意味を持つことになる。

「自分で悪い行為をするならば、自らはけがれ苦しむ。これに反して、自分で悪い行為をしなければ、自らは清らかなものとなる。こうした清らかさだけがれとは共に自らに熟することは出来ない」(165)

とある。清らかさと汚れとは「共に自ら熟する」ものであると、実に透徹した目で人間を見ている。行為の責任を神々や僧侶、儀式、生贄によつて解消することはできず、行為者がそれを負うとしている。ここでも釈尊は当時の宗教慣習に反する立場を取り、「自己」の行為の重さを論じている。

それでは「自己」の行為をどう整えるのか。こういう句がある。

「自分自ら自分を責めいましめ、自分自ら自分を検めなさい、かかる自らを守りつつしめ、正しく反省する者は、比丘よ、常に幸福

に生活するであろう」(379)

つまり自分を責め戒め、検め、慎み、反省することを求めている。そして「善良な馬を調御するように自らを調えよ」(180)とも言っている。またある句では、

「沈黙を守るとも愚かで智見なきものは牟尼(聖者)とは言われない。智者は丁度計量器を手に行っているように、善を自らえらびとり、悪をすてる。(略)」(268)とあるように、全体最適をもたらす平衡感覚をもつて取捨選択することを訓えている。これは中道の考え方に結ぶ句でもあろうか。

このように「法句経」は全句を通じ、「自己」に対する峻厳な教訓で満ちている。引き続き、修行者の姿勢、釈尊の理法などについて当たっていききたい。(続)



道



覚悟とは

大阪白鷺道院 道院長 佐々木正

開祖は、道院長としての心構えを、道院長講習会の度に呼びかけられ、叱咤^{しつた}激励をされてこられた。我々多くの道院長は、その言葉に充電され、頭の中では理解をし、よし頑張らねばとそれぞれの地域に帰って活動をしてきた。しかし、いつの間にか日常に流され、「マアそのうちに宝くじでも当たれば、道場の一つや二つすぐに建てるよ……」的な、現実離れた思いだけで、一歩も踏み出さないまま、さて何十年が過ぎたろうか？

幸いに私の場合は、妻に助けられ、2002年に気の遠くなるようなローンを組んで中古住宅を購入し、一階駐車場を改造し、道院として活動の拠点とすることができた。

そのころは、事あるごとに妻に、「借り物でない自分の道院を持ちたい」と、枕詞^{しごは}のように言っていた。それが効をなしたのか、妻も少しずつその気になり、新聞の折り込みチラシを物色しては不動産屋に電話し、希望物件に合うような建物を紹介してもらっていた。が、なかなか条件には合わず、不動産屋から次々と紹介の案内が来るようになってはいたものの、だんだん現実から離れていくような感じがしてきて、やはり無理かと諦めか

けていた。

そんなある日、監督をしていた大学の春季合宿に参加し、学生たちと汗を流していた夜、合宿場まではめったに連絡をしない妻から、電話を受けた。「合宿が済み、帰ってからも、と思っていたのですが……」。不動産屋から連絡が入り、ちょうど条件に合う物件が見つかったので、奥さんだけでもよいから見に来てくださいと言われ一人で見に行つたとのこと。「どうする？」と聞かれ、値段も何も聞かずに、直感で「すぐに手付けをしてくれ」と物件も確認せず家内に伝えると、「そういうだろうと思っていました。不動産屋さんには押さえておくように伝えます」との返事が返ってきた。合宿から帰りワクワクしながら物件を見に行くと、誠実な担当の方に安心し、物件にも満足し、すぐに契約に入った。自分の収入と値段を比べれば、とても手が出る物件ではないが、迷うことなく決断の後押しをしてくれたのは妻であり、その後の家計をやりくりしてくれているのも妻である（今でも頭が上らない）。

それから12年間、少しずつ活用してきて、今では大阪白鷺道院として、全ての儀式、行

事、易筋行^{えつきんぎょう}を18坪の道院で押し合い圧し合いしながら、楽しく充実した活動をしている。ここ数年「組織機構改革」が宗由貴総裁の不退転の決意、覚悟の下大きく動き出し、道院長一人ひとりが、自分の志を確かめながら家族、門下生、有縁の人たちを巻き込み、本気で取り組んでいる。この機構改革を成し遂げなければ、宗教法人金剛禅総本山少林寺は足元から崩れていく。皆、頭では理解していることだがせつば詰まらなければ本気で取り組まない。覚悟を決め、前に踏み出す勇氣はなかなかできない。「覚悟」という字は「さとる」を二つ重ねて読ませている。人生を明らかにし、一歩踏み出す覚悟。そして、一生のうち、人生を左右するほどの決断、皆、頭では分かっていること。

さて私の近況は、いまだに上がらぬ頭の上から、妻は「あなたの道楽にこの家を買ったのですから、しっかりと働いてローンを完済してくださいね……」こもつともです。小遣いが少ないという愚痴を聞き流されつつ少し覚悟が甘かったかも、の自己反省。でも、今日も下の道院で拳士たちの声が聞こえる。用事を済ませて、道衣に着替えて、さあ鎮魂行。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

vol.19

かまだ さとし
鎌田 智 107期生
大導師大範士八段

汗して学び行動する少林寺拳法、死ぬまで修行を貫きます

私の師は二人います。開祖から教えを、田村道明高松中央道院道院長から勇気と行動力を教わりました。21歳のときから15年余、開祖が講演などで全国各地に出向かれるときは同行される田村先生についていき、開祖の講演前に演武を披露しました。私は、開祖の教えを実践し、一生懸命努力してこられた田村先生の後ろ姿を見て育ったのです。

開祖は亡くなられた年の新春法会で、「死ぬまで修行に励めよ」と話されました。私が師を見て育ったように、私のことを拳士たちが見ているのだと思っています。これからも、「汗して学び行動する少林寺拳法」を目指し、死ぬまで修行を一直線に貫いていく決意です。

▼1963年5月、海岸寺にて師である田村高松中央道院道院長との演武。投げられているのが鎌田大導師大範士八段



ダイジェスト

×



道院長 元気の素

vol.19

ふくおかげんよう
福岡玄洋道院
道院長 益永 亮 (53歳)

苦勞なくして喜びを得ることはできない道院長への道を踏み出しましょう！

——道院長として今後挑戦したいことや夢はありますか？

あるとき、小学生の門下生が、「僕が大人になったら、先生の後を継いじゃーけん」と嬉しい一言。その言葉に勇気づけられ、さまざまな分野で活躍できるリーダー（指導者）としての基礎を持った拳士を一人でも多く育て、将来は道院長交代し、一拳士として新道院長を支えながら少

林寺拳法を一生楽しみ続けたいです。——将来、道院長を目指す全国の拳士にエールをお願いします。

道院長として得る「喜び」から「苦勞」を引き算しても、多大なる「感動」が残ります。時流を読んで「ここだ！」という時期がきたら、躊躇せず思い切って踏み出しましょう！

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



道院長資格認定研修会

道院長の心得を学ぶ

道院長資格認定研修会は2014年7月18日～7月20日です。幹部拳士の方、ぜひ人づくりの志を持って道院長を目指しませんか。

1月31日～2月2日、道院長資格認定研修会を開催した。本研修会は新たに道院を設立、または道院長を交代する者が対象で、今回13人が受講した。研修会では教団の役割や組織の方向性、道院長として心得ておくべき重要な事項を講習し、また道院運営に必要なノウハウに関する講義や実習を行った。

受講者は、集中して研修に取り組むとともに、休憩時間中も意見を交換し合い、刺激を受け合いながら道院長となる意識が高まっているようであった。そして、最終日には結束も強くなり、あたかも一つの道院のような雰囲気を出していた。

研修会の最後は、浦田武尚代表から「どんな困難があろうとも、ダーマの分霊であることが力になります。見識を深め、人格を高め、調和の思想を持ってこの道の布教に取り組んでほしい」との挨拶があり、受講者は仲間同士、認証式での再会を約束して会場を後にした。

（富田雅志）
お知らせ…道院長資格認定研修会は、年に3回開催しています。今回の道

認証式

新任道院長誕生

2月23日、本山にて認証式を挙行し、13人の道院長が認証を受けた。式典では、初めに浦田武尚代表が願文を奉読し、次に新任道院長が誓願文を奉唱し、正式な道院長としての誓約を行った。その後、道院長の辞令と道院の認証書が一人ひとりに授与された。

認証式後は、実際に道院運営を始めてから現在に至るまでの総括を踏まえ、今後の更なる充実を目的としてフォローアップ講習を行った。講習では、「金剛禪の充実」「道院の価値をどう高めていくか」などの講義、特別討議、質疑応答を行った。特に班別討議では、「道院の可能性について」をテーマに活発な意見交換が行われ、「道院を開かれた場所にしたい」「居心地のよい道院にしたい」「さまざまな人が集まれる場所にしたい」など、道院という場に対する展望がたくさん出てきた。最後に浦田代表から「認証と

なった今日この日を忘れずに、人に教え自らも学び、門信徒とともに歩む道院長になつてほしい」と激励の言葉があった。

正式に道院長の仲間入りを果たした新任道院長の今後の活躍に期待したい。
（富田雅志）

※金剛禪オフィシャルサイトの新任道院長紹介コーナーもぜひご覧ください。

山口県教区

交流を深めた一日

2月11日、山口県スポーツ文化センター武道場にて、第2回山口県教区講習会が行われました。13の所属から、40人の受講者が参加しました。

本山派遣講師の長田正紀先生による鎮魂行に続いて全員によ



る一人30秒の自己紹介が行われました。午前の講義は地元講師の鈴木義勝先生による「金剛禪の主張と願い」、長田先生から「少林寺拳法創始の動機と目的」について、行われました。開祖との思い出話を絡めながら説得力のある熱のこもった講義を頂き、高校生、大学生などの若い受講者にはいい経験になったようです。

午後の技術研修は、二グループに分かれて行われました。一技ごとに相対を変え、やり方も取り入れられ、違う所属の受講者同士で修練し、交流を深めることができました。
（古屋譲）

大阪府教区

新春法会

2月2日、大阪富木道院にて大阪府教区新春法会が行われました。導師は佐々木正大阪府教区教区長。水野高廣大阪桂道院道院長の門信徒代表挨拶の後、佐々木教区長の年頭挨拶では、「国内外の状況、政情が不安定な中で我々は何をなすべきなのかを考え、そして行動できる人間を育てることこそ最も重要なことであり、今こそ原点回帰し開祖の教えと技法を現代に生かすべく叡智を結集して局面を乗

り越えなければならない。目標に向かって貫徹できる信念と行動力が必要である」と話されました。また、西尾武関西地区総代の挨拶でも、これまで以上に一致団結して行動すべきであるとお話がありました。
（服部弘）

本部道院

善行表彰受賞

1月25日、香川県丸亀市の猪熊弦一郎美術館にて丸亀ロータリークラブの「善行表彰」式が行われ、本部道院の秋山将士拳士（15歳）が表彰を受けました。秋山拳士は、ボランティアとして一年間、毎朝、中学校校門の清掃活動に取り組みました。その活動は「私もやってみたい」という生徒が現れるなど、他の生徒の模範となり、ボランティア活動推進の波紋を徐々に学校内に広げていきました。

秋山拳士は小学6年生で金剛禪に入門し、中学3年生の現在、本部道院のムードメーカーになっています。「いつも当たり前に行っていることで表彰されたので驚いています。他人が幸せになったら自分も幸せになります。今後も当たり前のことを続けていきたいです」と語ってくれました。
（藤井省吾）

2014年2月度 認証

●新設

筑紫野桜道院 中牟田 佳登
綾瀬上土棚道院 藤野 健司
愛知追分道院 柏原 達司

●道院長交代

坂井東道院 真柄 勝利
三国湊道院 牧田 修一

大村三城道院 才津 行弘
江別大東道院 高橋 康子
東京南品川道院 白尾 國宗
名法道院 鈴木 貴博
四日市内部道院 寺内 義樹
三田南道院 東仲 太郎
岡山新見道院 高下 勝良

鴨島道院 笠井 健史
東京小平道院 近藤 伸洋
武雄道院 蒲地 哲哉
多摩聖ヶ丘道院 南部 章
松本中部道院 久根下 直樹
四日市桜道院 鈴木 昌也
播磨新宮道院 嶋澤 義文

僧階昇任者

大導師

■2013年11月10日付

古賀 秀晴(埼玉川鶴道院)
堀江 誠(武蔵浦和道院)
白尾 國宗(東京南六郷道院)
高島 英雄(富山婦中道院)
浦江 克英(愛知藤岡道院)
宮地 峰樹(日進南道院)
澤田 広通(愛知常滑道院)
中嶋 章保(知多新田道院)
渡辺 浩志(滋賀瀬田道院)
下川 博隆(大阪神宮寺道院)
桃實 博(鳥取倉吉道院)
賀治 達也(藍住道院)

権大導師

■2013年12月1日付

小暮 紘一郎(埼玉深谷道院)
庄司 不二雄(横須賀馬堀道院)

渡辺 昭彦(西宮今津道院)

中導師

■2013年11月10日付

大塚 一乗(南伊豆道院)
大西 良一(松阪西道院)

■2013年12月1日付

中島 健(横浜戸塚道院)
木下 謙治(愛知水源道院)
森井 明(東大阪御厨道院)

■2014年1月1日付

田村 文雄(旭川南道院)
松熊 俊和(東京深川道院)

■2014年2月1日付

平井 一也(相模林間道院)

権中導師

■2013年12月1日付

小清水 住男(札幌あかしや道院)
佐藤 雅彦(酒田中部道院)

榊原 淳(埼玉鶴瀬道院)
谷口 洋一(志木道院)
豊田 健(西船橋道院)
ミグダリスクー アレクサンドル
(経堂道院)
木内 格志(三軒茶屋道院)
花遊 貴(東京飛鳥道院)
橋本 由恵(湘南二宮道院)
望月 満(清水中部道院)
小峰 悟(清水袖師道院)
廣澤 一徳(静岡亀爪道院)
黒瀬 一輝(愛知高上道院)
黒瀬 好子(愛知朝日道院)
高木 ますみ(三重桑名道院)
廣田 道昭(三重桑名道院)
小川 裕久(大阪八尾南道院)
山岳 義憲(福岡伊都道院)

2015年度本山職員を募集しています。

ぜひ、オフィシャルウェブサイトの詳細をご覧ください。
<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>

本山行事

5月

10日(土)～11日(日)

道院長研修会1次

11日(日) 開祖忌

17日(土)～18日(日)

道院長研修会2次

31日(土)～6月1日(日)

道院長研修会3次

6月

7日(土)～8日(日)

道院長研修会(北海道・東北)

14日(土)～15日(日)

道院長研修会(九州・沖縄)

22日(日) 認証式

28日(土)

級拳士講習会①(東京)

5月は
宗道臣デー月間

お布施

▷東京都教区(教区からのお礼)

20,000円

▷津山道院(設立40周年記念帰山)

10,000円

▷代々木上原道院

300,000円

▷行橋中部道院 田中 克樹(勤続45年表彰記念)

30,000円

▷名誉本山委員 松木 長實(東京別院新春法会)

10,000円

公認講習会

▷東京都教区

30,000円

▷徳島県教区

30,000円

▷三重県教区

30,000円

▷山口県教区

30,000円

▷愛知県教区

30,000円

▷大分県教区

30,000円

▷宮崎県教区

30,000円

寄付・改修基金

▷市川若宮道院 古谷 進

30,000円

▷各務原東道院 青山 昌伸(設立35周年記念)

30,000円

新春法会御祝

東京都教区、徳島県教区、高知県教区、岩手高田道院、岩手大船渡道院、宮城塩竈道院、埼玉入間道院、勝田台道院、沼津愛鷹道院、静岡三島道院、京都西道院、大阪伊吹道院、川西中部道院、行橋中部道院、本部道院、本部道院OB会、岡田 孝、加藤義秋、鎌田 智、喜田 良延、今井 明雄、今城 隆廣、佐藤 一司、山崎 隆尉、篠原 正、小池 孝忠、庄野 雅巳、森 明弘、西山 俊一郎、西村 建夫、石井 宏明、田原 正晴、萩原 妙子、牧野 清、本多 英信、本田 演昭、木村 弘史、ウツミ整形外科医院、オークラホテル丸亀、お好み焼きよこた、セコム(株)、チサンイン丸亀善通寺、ツバメ工業(株)、トリックスターズ・アレア(有)、プリンネットワーク(株)、ペンションでぐち荘、ホテルトヨタ、まんぶく食堂、安藤接骨院、華

や商事、(株)JTB中国四国高松支店、(株)STNet、(株)アイコー印刷、(株)オザキ、(株)カナック・ビジネス・ソリューション、(株)カメイ務商店、(株)スタート、(株)セント・レディス、(株)ビルド、(株)ホテルサンルート瀬戸大橋、(株)一鶴、(株)花岡自動車、(株)丸松商店、(株)牛田塗装、(株)広告通信社、(株)香川クリエイティブプロダクツ、(株)香川銀行、(株)高松ホットスタンプ、(株)高松三越、(株)合田工務店、(株)三好石材、(株)四電工中讃西営業所、(株)前川商店、(株)白光舎、(株)百十四銀行、関西実業(株)、亀山石油(株)、香川印刷(株)、香川記章(有)、高畑産業(株)、今治造船(株)、三井住友海上火災保険(株)高松西支社、山陽放送(株)、山崎生花店、四国健康村、四国旅客鉄道(株)、小畑長生治療院、新日本印刷(株)、善通寺ステーションホテル、多度津タクシー、多度津駅、大一電気工業(株)、大西

旅館、大倉工業(株)、大和証券(株)、中讃ケーブルビジョン(株)、東洋防蝕工業(有)、日本総合保険企画(株)、日本郵便(株)、日本郵便(株)多度津郵便局、日本旅行、買田くだもの店、富士スポーツ工業(有)、富士ゼロックス四国(株)、富士建設(株)、武道用品だるま堂、民宿ちぐさ、民宿トキワ、民宿ロジック寿、民宿浦島屋、民宿細川、牟禮印刷(株)、名鉄観光サービス(株)、野村證券(株)高松支店、(有)VOX、(有)光風社広告、(有)香川建築設計事務所、(有)西山印刷所、(有)長尾酒店、(有)白井エビス堂、岸本 明輝、阪田 朗、中村 秀明、吉田 弘子、宮竹 八千代、宮野義久、宮野 康人、橋本 保、近藤 典子、三宅 富男、若山 詣子、小西 正訓、小田 浩司、新名 勝、神原 正、倉本 英雄、村井 智子、村野 巨樹、多羅尾 尚、中数賀昭子、田中 勇、都筑 美好、武鐘 謙治、高 秀雄、陰山 和子

訃報

すずやま きよみ
杉山 喜代美

小豆島道院(元道院長)、39期生、大導師大範士八段、2014年2月20日逝去、満83歳

編集後記▶^{さつき}皐月、新年度を迎えひと月経過した。五月病、就職や入学などで環境が変わり心をコントロールできなくなる時期。心・気・力のバランスが崩れる時期でもある。対応策は、こまめに気分転換・気晴らしをするように心がけ、新しい興味の対象を見つけ、旧環境の親しい仲間と時間を共にすることで改善されることもある。まさに道院参座が良薬となる可能性が大である。就活、受験で休んでいた門信徒に届けたい良薬であり、現役門信徒の皆さんが届け役となることを願う。今年度も心・気・力を一致し金剛禅運動を展開しよう。(お)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん vol. 34
金剛禅総本山少林寺広報誌 2014 皐月・水無月

2014年5月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：浦田武尚

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：大澤 隆

企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

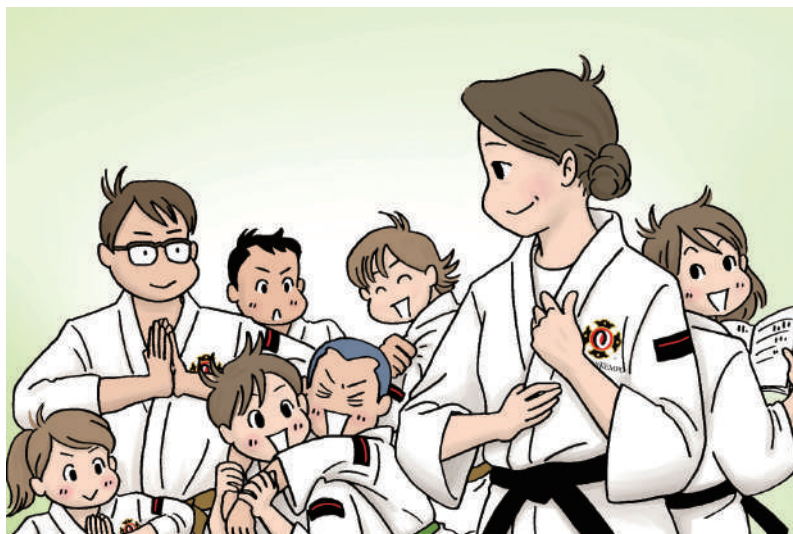
広報誌「あ・うん」追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

門司東道院 内山 弥生

「ありがとうございます」感謝と御礼

昨年11月23日、門司東道院20周年祝賀会が盛会に行われました。仮装したり、生バンドの演奏やダンス、舞踏、手品、ビンゴゲーム、拳士保護者による和気あいあいの隠し芸披露など、見て、聞いて、皆が楽しんだ手作り企画は、感動、大拍手、大笑いで盛り上がりしました。

門司東道院(設立当時は門司東支部道場)は、1993年10月、「来るのが楽しい!」と言われる道場にした。そしてふんわりと包み込むような感じで一人ひとりの個性を大切に、思いやりのある人間を育てたい」と内山博道院長の思いから出発しました。道院長は私の夫です。そのとき、私はがん告知を受け手術したばかりでしたが、支部道場発足を

機に現役復帰を決意しました。

その後も何度も大手術をし、現在も闘病生活は続いておりますが、20年間続けてこれしたのは皆様の励ましとご協力のおかげと感謝いたしております。痛くてつらくて苦しいときも、道衣姿になると身も心も合いが入り、道院で元気な拳士たちやご家族の皆様の顔を見ると幸福を感じます。少林寺拳法を通じて出会えたご縁に感謝し、支えてくださっている皆に「ありがとうございます」を伝えたいです。

道院の皆さんの支えが生きる力です。自分と闘いながら、一日一日を大切にして生きたい。一生勉強、一生闘病ですが、身体からだの続くかぎり頑張りたいと思います。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuka Ken, Furisute omote nage



宗門の行としての少林寺拳法

りゅう か けん ふりすておもてなげ
龍華拳 振捨表投

相手が一本背投などで投げんとしたときに用いる。相手の強い引き込みと、私の懐に入ってくる瞬時の回転を利用して投げるため、守者は攻者の攻めに動きを止めず、一息に技を掛けることが肝要である。鈎手守法^{かぎてしゅほう}によって、攻者の強い引きはそのまま自身の崩れへとつながるので、その流れに逆らうことなく体を捌^{さば}いて投げるとよい。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：永安正樹 准範士六段 攻者：富田雅志 大拳士五段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法